**第7回 化学人材育成プログラム**

**申　請　書**

|  |
| --- |
| ○次の１、２についてご記入下さい。１．博士人材育成の取組について（最大10頁以内）貴専攻の「育成方針」並びにそのために「現在行っている取組」及び「今後の取組」を、下記の「産業界の求める博士人材像」ごとに、具体的に、また頻度、規模、成果等を含め極力定量的に記載して下さい。＜産業界の求める博士人材像＞（１）特定分野に関する深い専門性に加え、幅広い基礎的な学力を持つ人材（２）課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材（３）リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材（４）グローバルな感覚を持った人材（出典）上記の人材像は、・産業界、大学、文科省、経産省が参加した｢産学人材育成パートナーシップ｣の議論（１３頁参照）[http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286890/www.meti.go.jp/press/20080327006/13\_siryou5-7.pdf](http://warp.da.ndl.go.jp/info%3Andljp/pid/286890/www.meti.go.jp/press/20080327006/13_siryou5-7.pdf)・「化学ビジョン研究会」の議論（９、１０、３１、３２頁参照）　 　<http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g100430a01j.pdf>　　　等を踏まえて、化学人材育成プログラム検討委員会が作成したものです。２．実績過去5年間の代表的な博士後期課程学生の研究実績について、記載して下さい。なお、参考項目として、以下について、書式に従い記入してください。・過去5年間の博士後期課程修了者の化学系企業への就職実績 ・当プログラム奨学金給付対象専攻においては、奨学生の化学人材育成プログラム協議会会員企業への就職実績○申請書の記載中、他の文献や調査報告書等の内容を引用する場合には、出典を明示してください。また必要に応じ、参考資料を添付（申請書同様に大学名と専攻名がわかるように）してください。○提出はE-Mailでお願いします。件名を「第７回申請書（○○大学大学院○○専攻」とし、ファイル名を「○○大学大学院○○専攻.doc」として大学（院）名と専攻名がわかるようにお願いします。但し、一枚目の『第７回「化学人材育成プログラム」への応募について』は押印後PDFでお送りください。宛先： jinzai\_ikusei@jcia-net.or.jp　　　　　　　化学人材育成プログラム協議会　事務局　　　　　　　 TEL:03-3297-2563　(事務担当：日本化学工業協会 労働部)※支援対象専攻に対しては、支援継続の妥当性を確認するため、年１回程度書面等により申請書に記載した博士人材育成の取組み状況について報告を求めることがあります。 |

ヘッダーに大学名、専攻名を記載ください。また、**吹き出しは削除**してください。

　　　　（以下同様）

２０１６年　　月　　日

一般社団法人日本化学工業協会

化学人材育成プログラム協議会

会長　石飛　修　殿

 大学大学院

 研究科専攻

 住所　（〒　　　　）

 代表者名 印

第７回「化学人材育成プログラム」への応募について

化学人材育成プログラムについて、別添の様式通り応募します。

|  |  |
| --- | --- |
| 　 | ２０１８年度 |
| 博士後期課程進学予定者数 |  人 |
| そのうち、奨学金給付対象専攻に選定された場合に 奨学金給付を希望する学生数 |  人 |
|

（※但し、奨学金を給付する学生は１名）

 連絡先

 ご担当者名

 所属・役職

 電話　　　　　　　　　　　FAX

 E-Mail

第７回 化学人材育成プログラム申請書　様式

１．博士人材育成の取組について

|  |
| --- |
| 1. 特定分野に関する深い専門性に加え、幅広い基礎的な学力を持つ人材（Ｔ型やπ型人材）
 |
| １）育成方針 |
| **このガイドは削除**してください。また、**斜体文字は標準に**してください。(以下同様) |
| ２）カリキュラム上の取組*（次の点に留意して記載して下さい。）* |
| *（講義、企業研修等のカリキュラム上の取組において自身の専門以外の分野に触れる機会をどのように設けているか。また、これにより幅広い基礎的な学力を付与するためにどのような指導を行っているか。等）**（現在行っている取組及び今後の取組について記載してください）* |
| ３）カリキュラム外における他の分野に触れる機会についての取組 |
| *（カリキュラム外で自身の専門以外の分野に触れる機会をどのように設けているか。また、これにより幅広い基礎的な学力を付与するためにどのような指導を行っているか。等）**（現在行っている取組及び今後の取組について記載してください）* |
| ４）産業界で役立つ知識、技能の取得についての取組 |
| *（特許出願、事業化に際してのコスト算出等、企業で役に立つような知識、技能の習得機会をどのように設けているか。等）**（現在行っている取組及び今後の取組について記載してください）* |

|  |
| --- |
| 1. 課題設定能力に優れ、解決のために仮説を立てて実行できる、マネジメント能力を持った人材
 |
| １）育成方針 |
|  |
| ２）研究計画の自主性について行っている取組（*次の点に留意して記載して下さい。）* |
| *（テーマの決定及びその後の研究計画の策定についてどの程度学生に任せているか。また、良質なテーマを自ら見いだす能力を付与するためにどのような指導を行っているか。等）* |
| ３）課題の解決力について行っている取組 |
| *（課題の解決に向けた研究計画の策定をどのように指導しているか。また、その実行に際してのマネジメント能力を付与するためにどのような指導を行っているか。）* |

|  |
| --- |
| 1. リーダーシップ、コミュニケーション能力に優れた人材
 |
| １）育成方針 |
|  |
| ２）研究室内での下級生の指導等について行っている取組（*次の点に留意して記載して下さい。）* |
| *（研究室内で下級生の研究等について、どのような指導を行っているか。また、これによりリーダーシップを付与するためにどのような指導を行っているか。　等）* |
| ３）研究室外での活動への参加について行っている取組 |
| *（企業や他分野の研究者との共同研究等の機会をどのように設けているか。また、こうした機会を通じてリーダーシップやコミュニケーション能力を高めるためにどのよう指導を行っているか。等）* |

|  |
| --- |
| 1. グローバルな感覚を持った人材
 |
| １）育成方針 |
|  |
| ２）海外での学会発表などについて行っている取組（*次の点に留意して記載して下さい。）* |
| *（海外での学会発表、研修、短期留学等の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じてグローバルな感覚を付与するためにどのよう指導を行っているか。等）* |
| ３）専攻内外の外国人研究員・留学生との交流の機会について行っている取組 |
| *（外国人研究員・留学生との交流の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じてグローバルな感覚を付与するためにどのような指導を行っているか。等）* |
| ４）英語教育について行っている取組 |
| *（講義発表等で英語を使用する機会や、英語力に係る研修受講等の機会をどの程度設けているか。また、こうした機会を通じて英語でのコミュニケーション能力を高めるためにどのような指導を行っているか。等）* |

|  |
| --- |
| その他特徴的な取り組み |
|  |

|  |
| --- |
| 直近５年間の代表的な博士後期課程学生の研究実績について記載して下さい。 |
| 掲載年 | 掲載媒体 | 著　　者 | テーマ | 特徴（掲載誌のレベル、受賞の有無、被引用数の状況等） | 概要及びセールスポイント |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

２．実績

スペースは適当に変えていただいて結構です。また、足りなければ２枚にしていただいて結構です。

[参考項目]

博士後期課程修了者の進路状況（過去５年）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　　 | 2012年度修了者 | 2013年度修了者 | 2014年度修了者 | 2015年度修了者 | 2016年度修了(予定)者 | 計 |
| 全修了者数\*1) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |
| 就職者\*2) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |
| 　アカデミア |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |
|  ポスドク |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |
| 　その他 |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |  | ( ) |
| 　\*1:留学生については、内数として( )内に記載してください。 \*2:就職者については、具体的な企業名を下の欄に必ず記載してください。 |
| 2012年度修 了 者就 職 先 |  |
| 2013年度修 了 者就 職 先 |  |
| 2014年度修 了 者就 職 先 |  |
| 2015年度修 了 者就 職 先 |  |
| 2016年度修了(予定)者就 職 先 |  |
| 備　考 |  |

当プログラムの奨学金受給者には、アンダーラインを付けてください。

 (現在 または 過去、奨学金給付対象専攻の場合)

社会人博士後期課程は含みません。

(３) 今年度(2016年度)における博士前期課程（M1,M2）、博士後期課程(D1,D2,D3)在籍者数

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | M1 | M2 | D1 | D2 | D3 |
| 人数 |  |  |  |  |  |